

1-【1】資料・情報の提供（貸出し・閲覧・予約・レファレンス）

概要	○ 一般図書は、国内年間出版点数の5割以上を目指して収集し、雑誌や新聞は2,000タイトル以上を収集します。 ○ 電子書籍サービスのさらなる充実を図ります。 ○ レファレンス・サービスについて、ウェブ・サイトやSNS、チラシ配布、出前図書館に加え、動画やマンガを活用した分かりやすく具体的なPR活動を実施します。	サービス指標 リクエストの受付件数 電子図書館の閲覧回数	R 4 年度（8/31現在）	R 8 年度目標
			1,795件	4,000件
			9,300件	10万回

主な取組（R4.4/1～8/31）

①資料の収集・提供

・購入については昨年と同水準で順調。雑誌も計画目標の2,000タイトル以上を確保。
※数値部分は「資料2 サービス指標及び主な実績値」に掲載
※各サービスの進捗管理シートに掲載

②貸出し・予約・リクエスト

・利便性向上のため、マイナンバーカードで貸出しできるようシステム改修を検討。

③展示

※各サービスの進捗管理シートに掲載

④利用ガイド

※各サービスの進捗管理シートに掲載

⑤レファレンス

・館の広報紙に調べもの案内について具体例を掲載し、調べもの案内サービスの利用促進を図った。

成果と課題（○：成果 ■：課題）

①資料の収集・提供

○ 一般図書については、年間出版点数の概ね4割程度に達している。
雑誌も目標の2,000タイトルの収集・提供を達成できている。

○ 新たに電子雑誌閲覧サービス（Kono Libraries）を声と点字の図書館と共同で導入した。

○ 高知県教育委員会と連携し、県立学校教員・生徒に対し、学校単位での登録を行った。

■ にもかかわらず閲覧回数が微増にとどまっている。教員向けに電子図書館活用方法の周知と共に電子図書の充実が必要だが、期限付きタイトルの販売割合が増えており、タイトル数の増加には資料費の増額が必要な状況になっている。

○ リサイクル図書の配布
NPO法人に絵本を配布（市）。
役割を終えた選定支援用児童図書を、市町村図書館だけでなく県内児童養護施設等にも配布（県）。

■ 年間出版点数の5割以上収集のための資料費の確保。

■ 選定支援用児童図書の配布先の拡充（除籍後の資料のさらなる有効活用）（県）。

②貸出し・予約・リクエスト

③展示

※企画展示等については、各サービスの進捗管理シートに掲載しています。

④利用ガイド

※「ブックリストやパスファインダーの作成・提供」については、各サービスの進捗管理シートに掲載しています。

⑤レファレンス

○ 件数はR 8 年度目標の7割程度となっているが、これはほぼ所蔵レファの減分で、事項レファについてはわずかだが増えており、県民・市民の課題解決に貢献できている。

今後の取組

①・多様な資料の収集・提供を更に充実させる。
・電子サービスについては周知を図る。

②・年度内にマイナンバーカードに対応したシステムに改修する。

③ ※各サービスの進捗管理シートに掲載

④ ※各サービスの進捗管理シートに掲載

⑤・調べもの案内サービスについてPRを継続する。

特記事項など

1-【2】情報リテラシーの向上支援

概 要	○ 実際に資料や情報を参照することができる図書館のメリットや司書の専門性を生かし、情報社会において求められる情報リテラシーの習得や向上を支援します。	サービス指標 パスファインダーの提供数 データベースの利用件数	R 4 年度（8/31現在）	R 8 年度目標
			15種 991件	65種 5,000件

主な取組（R4.4/1～8/31）

- ①図書館活用講座の実施 新規
 - ・5月に情報リテラシー向上支援を目的とする部署横断的な委員会を発足。講座開催ほかの年度内のスケジュールを作成した。
- ②パスファインダーの作成・提供
 - ・各サービス担当が関連するテーマに応じたものを、新たに1種作成、4種を改訂した。
- ③ガイドブックの作成・提供
 - ・自宅等にしながら視聴可能な情報リテラシー向上に役立つ動画の制作にあたり、台本を2本作成した。
- ④連携事業等での情報リテラシー向上支援の実施
 - ・①のスケジュール作成とともに、連携事業や図書館見学等の機会に、サービス・利用者の段階に応じて実施する情報リテラシー向上支援プログラム（体系表）の作成について協議した。
- ⑤アウトリーチ（出前図書館等）での情報リテラシー向上支援の実施
 - ・各サービス担当により実施。
例：ジョブカフェこうち主催の「親子みらい×ワーク研究室」における図書館PR
- ⑥データベースの利用促進

成果と課題（○：成果 ■：課題）

- ①図書館活用講座の実施
 - 情報リテラシー講座の実施計画を策定。（本年度4回の講座を企画。第1回は11/19。以降R5.1～3月に月1回開催する）
 - 本年度は本格的な情報リテラシー向上支援の開始年であるので、手探り状態であり、講座開催と動画制作以外には手が回らず、下の②～⑤（③の動画を除く）については昨年度同様、それぞれのサービス担当による計画と実施が主体となっている。
- ②パスファインダーの作成・提供
 - 開館後、ティーンズ、多文化、ビジネス及び健康安心防災の分野について、計15種作成した。各分野まんべんなく調べもののツールとして提供できている。
 - R8年度目標達成のためにはペースアップが必要。
- ③ガイドブックの作成・提供
 - 動画台本を2本作成した。（基本編として「館内OPACを使った本の検索」「検索結果から館内で本を探す」という内容（年度内に延べ8本制作予定）。）
 - 館内での撮影は開館前、毎月第3金曜日に限られるため、計画的に進める必要がある。
- ④連携事業等での情報リテラシー向上支援の実施
 - 段階別の情報リテラシー向上支援のための具体的なプログラム（体系表）の作成
- ⑤アウトリーチ（出前図書館等）での情報リテラシー向上支援の実施
 - 連携イベント開催時や県市の各組織・機関がオーテピアの貸室を利用する場合などの機会において、積極的に図書館の利活用をPRすることが職員に定着した。
- ⑥データベースの利用促進
 - データベースは全国的にも充実したラインナップを実現し、利用頻度等による取捨選択を行うことによって、年々充実度を上げている。
 - コロナ禍の利用者数低下やPR不足により、利用が広がっているとは言い難い状況。R8年度目標達成のためにはペースアップが必要。

今後の取組

- R3.8月に作成された情報リテラシー向上支援プログラム（体系表）案を本年度内に完成させ、このテーマに関するオーテピア高知図書館としての考え方を確立・共有。
- ① 情報リテラシー講座の実施と動画コンテンツ制作については本サービスの柱として実施を継続する。
- ②～⑤
 - ・基本的には各サービス単位で行うが、委員会で進捗管理のうえ、サービス指標目標値に近づくよう、内容の充実も含め働きかける。
- ⑥ 利用講座実施も含め、PRと浸透を図る。

特記事項など

- ・動画コンテンツはツールとして有効であるため、制作者の育成が必要である。今よりもなお多数の職員が動画制作による発信に携われるよう、シナリオ執筆・撮影・編集等に関する技術を伝授・継承していく必要がある。

2-【1】ビジネス支援サービス

概 要	○ 経済や経営、就業、起業、転職等、課題解決に役立つ6～7万冊の書籍、専門誌、データベース等のビジネスに関連する資料・情報を提供します。 ○ 気軽に相談できるビジネス支援デスクを設置し、担当司書が、情報収集や調べものをサポートします。 ○ ビジネスに役立つ講座や相談会等を専門機関等と連携して開催し、図書館活用講座等を実施します。	サービス指標 ビジネス・農業・産業支援分野でのレファレンス件数	R 4 年度（8/31現在）	R 8 年度目標
			753件	2,400件

主な取組（R4. 4/1～8/31）

①図書の収集・提供

・ニーズの高い資料の購入、レファレンス等をきっかけに未所蔵資料の収集などを実施。
・貸出しが少ない雑誌・新聞の展示を8月に実施。

②ブックリストの作成・提供

・「SDGs×企業」（7月）
・「副業」（作成中）

③レファレンス・サービス

・一般利用者や行政関係者からのレファレンスに回答。

④ビジネス支援サービス活用講座の実施

・動画「仕事に使える！図書館活用術」をYouTubeで4月に公開。

⑤他機関と連携したセミナー・相談会等の事業の実施

・こうち若者サポートステーションと連携し「若者進路相談会」を毎月実施。共催内容を見直し、5月から会場に本を展示。
・「デジタルデザインコンテスト」開催に向けてYAMAKIN株式会社と協議を実施。**新規**
・「高校生ビジネスプラン・グランプリ プラン作成講座」を実施。
・県農業担い手支援課と連携し「まちかど就農相談」を5月から毎月実施。農業関連イベントや展示等を実施。**新規**
・県計画推進課と連携しSDGs推進セミナーでブックリストの提供及び出前図書館を実施。

成果と課題（○：成果 ■：課題）

①図書の収集・提供

○ 認知度の低い雑誌・新聞の展示によって、展示前の貸出累計が2回以下の雑誌においても貸出稼働率は109%となっており、認知度の向上や利用促進に繋がった。
■ 専門的な新聞・雑誌の利用が依然として伸び悩んでいる。図書も含め、より具体的な利用者ニーズの把握とPRが必要。



貸出しが少ない雑誌・新聞の展示

②ブックリストの作成・提供

○ 県庁・市役所の組織・機関と連携することで、より利用者ニーズに沿ったテーマのブックリストを作成・提供できた。（主な連携先：県計画推進課、県労働委員会事務局）

③レファレンス・サービス

○ 行政関係者からの問い合わせは、昨年度の同時期と比較して2倍に増加した。
■ 利用者から「レファレンス・サービスを今まで知らなかった」「申込方法が分からなかった」という意見があったため、サービスの周知が必要。

④ビジネス支援サービス活用講座の実施

○ 動画の公開により、常時、基本的な図書館の活用について学べる環境を構築できた。

⑤他機関と連携したセミナー・相談会等の事業の実施

○ ・「若者進路相談会」を継続実施は、相談者の自立支援に貢献できている。
・「高校生ビジネスプラン・グランプリ プラン作成講座」を実施し、図書館の活用方法について若年層に周知できた。
・「まちかど就農相談」では、就農希望者への継続的な情報提供体制を構築できた。
・連携図書展示（6月）や「親子で農業ふれあい体験」（7月）を実施。連携図書展示では資料60点が貸し出され、イベント参加者には好評を得た。図書館の農業支援のPRだけでなく、県農業担い手支援課等の取組や、「まちかど就農相談」等の周知に繋がった。
■ 定例開催の事業はマンネリ化しないような工夫が必要。



若者進路相談会の様子

今後の取組

①・利用者ニーズの把握とPR方法について検討。

②・年度内にブックリストを3種類以上作成予定。

③・レファレンス・サービスの一層の周知。

④・日本農業新聞データベース活用講座、土佐MBA開講式参加者への活用講座を実施予定。

⑤・定例事業での図書展示等は、主催者とも相談しながら参加者の展示する図書のニーズを反映する。
・「まちかど就農相談」でDBチラシ配布
・9/1～「デジタルデザインコンテスト」作品募集
・9/3放送大学主催の講演会、11/4、2/14「こうちSDGs推進セミナー」で出前図書館
・9/18・19「税関展」高知税関支署との共催
・11/9～12ものづくり総合技術展に出席
・11/30 ICT技術セミナーにて出前図書館

主な連携先

こうち若者サポートステーション、YAMAKIN株式会社、日本政策金融公庫、県農業担い手支援課、県計画推進課、県労働委員会事務局、放送大学高知学習センター他

特記事項など

・図書館活用事例まんがNo. 4 作成中

・放送大学の教材を配架

・高知銀行への団体貸出について協議

・書店との連携事業を協議

・一部の研究個室に防音対策整備を検討

2-【2】健康・安心・防災情報サービス

概要

- 健康・福祉・防災等の分野の課題解決につながる資料・情報を提供・発信するとともに、図書館の活用方法を積極的に周知します。
- 専門機関等と連携してイベントを開催したり、チラシ・パンフレットの配布や企画展示を行ったりすることで、利用者に情報を提供します。

サービス指標

健康・安心・防止情報分野での
レファレンス件数

R 4 年度 (8/31現在)	R 8 年度目標 (変更前)
579件	2,000件 (1,600件)

主な取組 (R4.4/1~8/31)

- ① 図書の収集・提供
 - ・ 高知県自閉症協会ほか専門機関と連携して発達障害・燃え尽き・難病などの図書展示を実施した。
 - ・ 健康安心防災分野の資料活用を分館・分室に呼びかけ、分館・分室においてテーマ展示を実施。
 - ・ 出前図書館を実施 (9 件)
 - ・ ブックリスト3種・パスファインダー3種の新規作成・改訂。
- ② 他機関と連携したセミナー・相談会等の共催事業の実施
 - ・ 高知大学医学部等の専門機関と連携し「がん相談会」などの共催事業について協議。
 - ・ 7月~「ひきこもりピア相談会」を定例開催。
 - ・ 「いきいきセカンド☆ライフ講座」での活用講座実施。
 - ・ 高知リハビリテーション専門職大学などの共催事業の実施。
- ③ アウトリーチ・サービスの実施
 - ・ ヤングケアラーを担当する県子ども・福祉政策部を訪問し、互いの取組について情報交換を行った。
- ④ 広報支援
 - ・ 関係機関と連携し、館内での広報物の配布やパネル展、図書展示等を実施した。
 - ・ 「ほおっちょけん相談窓口」事業など、広報支援について関係機関担当者と協議した。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ① 図書の収集・提供
 - 専門機関が展示資料を選定することで、利用者に信頼性の高い情報の提供ができた。
 - 期間展示用の展示架を設置し、時宜にかなった展示ができるようになった。
 - 分館・分室での資料展示により、地域の利用者がオーテピアの資料を手に入る機会を増やし、幅広く情報提供できた。
 - 多い時では月300冊の利用があるなど好評。
 - 市高齢者支援課から認知症サポーター養成講座での「認知症」ブックリストの配布希望、心の教育センターから研修用ブックリスト作成依頼があり、作成・提供した。
- ② 他機関と連携したセミナー・相談会等の共催事業の実施
 - 「ひきこもりピア相談会」の定期開催により、問い合わせが増加した。
 - 開催時間中は常に相談者がいるなど、支援を必要とする利用者に情報提供できた。
 - 関係機関と共催でイベントを実施時に説明時間を設け、図書館の活用方法も周知することができた。
- ③ アウトリーチ・サービスの実施
 - 関係機関と互いの取り組みを共有でき、データベースの活用や連携展示等の取組につながった。
 - バリアフリーサービスやティーンズ・サービスなど他のサービスとの情報共有が必要。
- ④ 広報支援
 - ハザードマップなどの広報物が好評。ニーズにあった情報を利用者に提供できた。



6/14 いきいきセカンド☆ライフ講座



県子ども家庭課と連携したヤングケアラーに関する図書展示



専門学校生向けの図書館活用講座



健康・安心・防災関係資料の分館・分室での展示の様子

今後の取組

- ① ブックリスト等により県民・市民、専門機関及び行政各組織・機関へ、図書館活用の周知を継続。
 - ・ 「つながるfesta」出前図書館(9/28)
 - ・ 「高知市消防団フェス」出前図書館(11/6)
 - ・ 地域の生活支援情報検索サイト(市地域共生社会推進課)Licoネットへの登録を検討。
 - ・ 収集した資料の活用について、利用者のニーズを継続して把握。
- ② 相談会場に本を用意し、相談員にも図書館の利用方法を説明。
 - ・ ひきこもりピア相談会(9/6・11/6・3/5)
 - ・ がん相談会(10/10・20・30)
 - ・ いきいきセカンド☆ライフ講座(12/13)
 - ・ その他共催イベント実施予定(9~11月)
- ④ 広報支援について関係機関担当者と協議。(高知県社会福祉協議会・高知県警)

主な連携先

県子ども家庭課、市地域共生社会推進課高知リハビリテーション専門職大学 他

特記事項など

- ・ 来館が困難な県民・市民の音読活動サポートのため、いきいき音読倶楽部アーカイブ動画を作成中。
- ・ レファレンス事例マンガNo.2「発達障害」を作成し、不特定多数の人に周知できた。
- ・ 学生向けの活用講座・見学対応の実施。

2-【3】行政支援サービス

概要

- 高知県庁と高知市役所の職員が、行政運営や政策立案を行う際の情報収集や調べものを図書館司書がサポートします。
- 多数の人が訪れる強みを生かし、各組織・機関と連携した講座・イベントの開催やパンフレット等の配布を行い、政策・施策の推進を支援します。

サービス指標

図書館と連携した課題解決支援のための図書館サービス説明等の実施

R 4 年度（8/31現在）	R 8 年度目標
17回	56回

主な取組（R4.4/1～8/31）

※個別サービスでの取組は各サービスのシートに記載

- ①各組織・機関への貸出し
 - ・行政各課向け団体貸出の運用を整理し、メルマガ等で周知。
 - ・行政各課の利用団体数及び貸出数を集計するための仕組みを構築。
- ②図書館活用講座等の実施
 - ・こうち人づくり広域連合及び県人事課主催新採研修に活用講座動画を提供。
 - 6/9「政策研究共同研修」で活用講座を実施。
- ③図書館活用事例の広報
 - ・活用事例まんがNo. 2、No. 3の作成。
 - No. 4の事例決定。詳細なプロットを検討。
 - ・レファレンスや広報協力などに関する図書館活用事例をメルマガ等で周知。メルマガ1回分の文量や配信頻度の見直し。
- ④各組織・機関と連携した取組の実施
 - ・ビジネス、健康安心防災情報、多文化サービスにおいて、各関係機関と連携して定期相談会、体験会、連携展示等を実施。



「高知県外国人材確保・活躍ガイドブック」より

成果と課題（○：成果 ■：課題）

- ①各組織・機関への貸出し
 - 各課からの問い合わせが増加し、利用の促進につながった。また、各課の貸出実績を参考値として、利用の多い課の傾向が把握できた。
 - 高知市学校教職員向けの団体貸出の運用について、その方法や周知について協議を進める必要がある。
- ②図書館活用講座等の実施
 - ・研修後のアンケートで、「レファレンス・サービスを知らなかったが、今後は業務に活用したい」という声が多くあげられた。
 - ・各サービスでの取組により、図書館を業務に活用する情報提供及び活用しやすい環境整備ができた。
- ③図書館活用事例の広報
 - 活用事例まんがはマスコミに取り上げられ、図書館の活用事例について広く周知できた。また、メルマガを見た行政職員からレファレンスの新規申込みがあり、図書館が業務に役立つことをPRできた。
- ④各組織・機関と連携した取組の実施
 - 連携により各組織・機関との相互理解が深まり、ニーズのあるより正確な情報提供ができ、課題解決に寄与できた。
 - ・継続的な取組実施のため、各関係組織・機関との連携を深める必要がある。
 - ・定期相談会等、連携事業の更なるPRが必要。



新採研修提供動画



県農業担い手支援課と連携した親子で農業ふれあい体験の様子（ビジネス支援）

今後の取組

- ① ・利用の多い部署でニーズの高い資料を把握するとともに、利用の少ない部署にPRを継続。
- ・教職員向け団体貸出の運用がまとまり次第、分館・分室や校長会にて周知。
- ② 3/19 D1-Law.comデータベース講習会
- ③ 活用事例まんがNo. 4の作成。
- ④ イベント実施や展示等の取組を通して、関係組織や機関との連携を深めていく。

主な連携先

- 県：子ども・福祉政策部、人事課、農業担い手支援課、新規就農相談センター、計画推進課、教育センター 他
- 市：健康増進課、新エネルギー・環境政策課、地域共生社会推進課、文化振興課、観光企画課、地域活性推進課 他

その他：こうち人づくり広域連合

特記事項など

- ・各課の職員が行政端末からレファレンス依頼をしやすい仕組みを検討中。
- ・こうち人づくり広域連合新採研修に提供した活用講座動画の一般公開について協議中。

2-【4】高知県関係資料の収集・保存・提供

概 要	○ 高知県に關係する資料を幅広く網羅的に収集し、利用に供するとともに、資料を生かし、県民・市民、観光客や移住希望者等に向けて情報発信します。 ○ 貴重資料をはじめニーズの高い資料のデジタル化を進め、ウェブ・サイトで公開します。	サービス指標	R 4 年度（8/31現在）	R 8 年度目標
		高知県関連のレファレンス件数	1,324件 （事項：461、所蔵：863）	4,400件

主な取組（R4. 4/1～8/31）

- ① 高知県にとって必要な資料の収集
- ・ ouchiミュージアムネットワーク地域資料部会と連携して、県内資料の保存状況等の情報を共有。
- ② 図書以外の資料の収集（県）
- ・ 高知資料コーナーにおいて 県内市町村の紹介展示を行い、それに合わせて当該自治体に観光パンフレット等の寄贈を依頼。
- ・ 県や市町村に対し行政資料等の寄贈を依頼。
- ・ デジタル情報の収集・保存の先行事例等についての情報を収集。
- ③ 貴重資料等のデジタル化（市）
- ・ 『燧袋』のデジタル撮影及びニーズの高い「武吉孝夫写真文庫」（仮）等の未整理資料や新規に受入れた資料の目録データ作成。
- ④ デジタル化された貴重資料の提供
- ・ 収蔵品検索データベースのより一層の充実を図るため、NDLサーチ等の外部データベースとの連携促進。
- ・ くずし字の解読ができた資料について、デジタル・ギャラリー上で翻刻文掲載。

成果と課題（○：成果 ■：課題）

- ① 高知県にとって必要な資料の収集
- 県民・市民から提供のあった貴重な資料について、ouchiミュージアムネットワークを通じ保存・受入先を検討し、資料の散逸を防いだ。
- 県内の他の文化施設も含め、収蔵スペースに余裕がないことや マンパワーが十分でないことなどから、資料を受け入れることに限界がある。
- ② 図書以外の資料の収集
- 県内市町村の紹介展示により、市町村情報の発信とともに各市町村の資料の収集ができた。
- デジタル情報の収集方法についての検討が進んでいない。
- ③ 貴重資料等のデジタル化
- 収蔵品検索データベースに「田岡典夫文庫」の目録データ（5,447点）を公開したことで、ウェブ・サイトから資料を検索・利用できるようになり利便性が向上した。
- 楠瀬家資料の『燧袋』のデジタル撮影及び新規に受入れた貴重資料や未整理資料について目録データの作成を行うことで、原資料の良好な保存につながった。
- 一部の 貴重資料の撮影や整理を進めるための環境が整っていない。
- 写真の画像公開について、肖像権等に問題がないか確認が必要。
- 未整理資料のうち、寄贈・寄託の経緯が不明な資料があり関係者への連絡が必要。
- ④ デジタル化された貴重資料の提供
- 他の外部データベースとの連携については、取組を継続中。
- くずし字勉強会における『順水日記巻之一（卑家月書外之部一）』の解読が終わり、翻刻文が完成した。



県内市町村紹介展示

今後の取組

- ① ouchiミュージアムネットワークと連携して小規模館・個人宅での原本保存を支援し、デジタル画像等で情報のみ収集するなど、収蔵スペース確保までのつなぎの対策を、他の文化施設とも情報共有しつつ検討する。
- ② 市町村の紹介展示は引き続き実施していく。
- ・ デジタル情報の収集方法について、先行事例の収集分析、県立公文書館との連携協議など、具体的な作業に入る。
- ③ 「田岡典夫文庫」の目録データや、デジタル画像公開に必要なメタ・データの作成については引き続き作業を進める。
- ・ 『燧袋』については引き続き撮影の実施。未整理資料等の目録データを作成し終えたものについては、ウェブ公開に向けて作業を進める。
- ・ 武吉孝夫氏写真資料については優先的に整理を進める。
- ④ 引き続き、連携に向けて作業を進める。

主な連携先

ouchiミュージアムネットワーク

特記事項など

- 県史編さん事業への協力。
- NHK朝の連続テレビ小説(2023年前期)「らんまん」放送に向けての協力。

3-【1】児童サービス

概要

- 子どもたちの心や成長によりそい、豊かな読書経験を培う手助けをするとともに、生涯学習の基礎となる情報リテラシーの向上を図ります。
- 子育てに関わる大人や子どもの読書活動を支える大人に対する支援を行います。

サービス指標

こどもカウンターのレファレンス件数

R 4 年度 (8/31現在)	R 8 年度目標
2,384件	7,900件

主な取組 (R4.4/1~8/31)

- ① 情報リテラシーの学習機会の提供
 - ・ 図書館見学の説明資料では、本の分類部分などを子どもに理解しやすい内容にアップデート。
 - ・ ジョブカフェこうちとの共催イベント「知って！調べて！描こう★私の未来地図」で、仕事に関する調べものに役立つパスファインダーを作成・配布。
- ② 子どもと本を結びつける行事の実施
 - ・ 図書館登録ボランティアとの連携したものも含めたおはなし会を定期的に開催。
 - ・ 「読書感想文課題図書」や「夏休みの宿題のヒントとなる図書」などの本の展示を実施し、こども向け案内地図を作成・配布。
 - ・ 「高知市学校図書館支援員研修会」において、高知市学校教育課と連携し、当館の実施しているサービスなどについて説明。
- ③ 保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及。
 - ・ ストーリーテリング勉強会等を定期的に実施。
 - ・ 「大人のためのおはなし会」も計画している。
 - ・ 高知学園短期大学と、学生ボランティアについての検討を開始。
 - ・ 高知市子ども育成課主管の親子絵本ふれあい事業の本の受け渡し場所として協力を継続。
- ④ 子育て支援に関連する資料や情報の提供
 - ・ 「子育て応援コーナー」に関連雑誌を新たに設置。
 - ・ 連携先と講演会の共催や、展示を実施。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ① 情報リテラシーの学習機会の提供
 - 見学に来た子どもたちからわかりやすいと好評。
 - 子どもたちが将来を考えるために役立つ情報リテラシー向上の機会を提供できた。
 - 図書館見学に来られない子どもたちが、自宅や学校からでも図書館の使い方を学べるような機会が必要。
- ② 子どもと本を結びつける行事の実施
 - おはなし会に参加することで本やおはなしの世界に親しみを持つ親子が多く、継続的な来館に繋がっている。
 - チラシの見直しに加え、チケットの配布についてカウンターでの手渡しから、会場前で自由に取っていただくように変更するなど工夫を行った結果、おはなし会の参加者が増加した。
 - 展示や地図を配付することで、多様な資料との出会いを促進し、貸出しに繋がった。
 - 学校図書館支援員の団体貸出や選定支援コーナーの利用に繋がった。
 - 学校図書館支援員だけでなく、図書担当の先生にも働きかけを行う必要がある。
- ③ 保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及。
 - 学生におはなし会を見学してもらい、図書館の児童サービスについて理解してもらった。
 - 絵本の受け渡し窓口となることで、親子が絵本をつかってコミュニケーションをとる機会の提供と、今後の図書館利用の促進に繋がった。
- ④ 子育て支援に関連する資料や情報の提供
 - 館内に散在していた子育て応援に関係した内容の雑誌を一か所にまとめて置くようにしたことで、利用者(特に小さな子ども連れや妊婦)の利便性が向上した。
 - コーナーが狭いため、場所や書架を検討する必要がある。



図書館見学用で使用しているスライド



7/30「知って！調べて！描こう★私の未来地図」の様子



子育て応援コーナーの雑誌書架

今後の取組

- ① 図書館見学に来られない学校に対して、オンラインで図書館の使い方を学べる仕組みの構築を検討する。
 - ・ パスファインダーの種類を増やす。
- ② 定例の行事を継続して行う。
- ③ 高知学園短期大学の学生ボランティア活動実施に向け、学生たちも含めて10月以降に具体的な検討を進める。
 - ・ ボランティア団体と共催して、9月~12月に「楽しみながら学ぶおはなしの連続講座」を開催予定。
- ④ 子育て応援コーナーの場所の変更について検討する。
 - ・ 9/23(金)「子育て講演会(高知会場)」(連携先：心の教育センター)開催予定。

主な連携先

高知こどもの図書館、高知市子ども育成課、高知県心の教育センター、高知県子ども家庭課、高知市人権・こども支援課、高知市新エネルギー環境政策課、高知市市民活動サポートセンター、ジョブカフェこうち、高知市環境業務課、高知県県業務衛生課、高知県農業担い手支援課、高知県自然共生課、高知市学校教育課、高知学園短期大学

特記事項など

- ・ 2023年1月に、JBBY「世界の子どもの本展」の巡回展示と講演会開催予定。
- ・ 「高知こどもの図書館」「県立文学館」「まんがBASE」のコーナーを継続して設置し、周辺の文化施設の回遊に寄与。

3-【2】ティーンズ・サービス

概要

- ティーンズ世代の多様な興味・関心に応える本や学習内容を深めることのできる本等を提供します。
- イベント・企画展示の実施やPR活動等により、図書館利用のきっかけづくりと読書機会の創出に取り組めます。

サービス指標

ティーンズからの投稿件数

R4年度(8/31現在)

12件

R8年度目標

50件

主な取組 (R4.4/1~8/31)

- ①ティーンズを主体とした読書普及活動の実施
 - ・「オーテピア・ティーンズ部」の部員を公募し、読書推進活動を行った。
 - ・「オーテピア・ティーンズ部」の自主企画としてリレー小説を実施。
 - ・「あつまれ ティーンズ部」を企画した。

②情報リテラシーの学習機会の提供

- ・現在提供中のパスファインダーの内容を改訂した。
- ・山田高校の生徒に図書館活用講座を行った。内容は図書館の資料分類方法、本の探し方・調べ方、データベースの紹介と館内見学ツアーの実施。生徒の課題解決のための参考図書を提供した。

③ 他機関と連携した取組の実施

- ・県主催の教育支援センター連絡協議会で不登校支援についてPRを行った(リモート)。
- ・県下26箇所の教育支援センター宛てにティーンズ・サービス広報誌の郵送を開始した。
- ・高知県地域福祉政策課を訪問し、ヤングケアラー支援において活用できる図書館サービスを説明した。

④ ブログ、SNSの活用

- ・ティーンズ部員からの投稿された本の紹介文をFacebookに掲載した。
- ・ティーンズコーナーの展示をInstagramに掲載した。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

①ティーンズを主体とした読書普及活動の実施

- リレー小説企画の案内をきっかけとして4人の新入部員があった。参加者から「やりがいがあった」「入ってよかった」との声が寄せられた。第2回目のリレー小説も実施予定。
- ティーンズ部交流イベントは参加者が0名のため中止。参加したいと思わせる楽しい企画が必要。実施方法なども考える必要がある。

②情報リテラシーの学習機会の提供

- ・山田高校の生徒への図書館活用講座では、図書館の利用促進につながった。参考図書を選んでもらう時間と館内ツアーは特に好評で、来年度も実施予定。
- ・「高校生ビジネスプラン・グランプリ プラン作成講座」を開催。ビジネスプランの作り方を学ぶとともに高校生の将来に役立ち、図書館の利用につながる内容となった。



山田高校の生徒への図書館活用講座



高校生ビジネスプラン・グランプリ プラン作成講座



ティーンズ通信

③ 他機関と連携した取組の実施

- 連絡協議会でのPRが高知県心の教育センターとの打ち合わせにつながった。
- 訪問によりつながりができた高知県子ども家庭課と協力し、ヤングケアラーについてティーンズ通信に掲載。ティーンズ世代の認知度を向上させることができた。
- さまざまな事情を抱えるティーンズに、図書館に親しみを感じてもらえる工夫が必要。

④ ブログ、SNSの活用

- ティーンズ部員や、ティーンズ世代の利用者からの投稿を増やす工夫が必要。

今後の取組

- ①・9・10月展示「高知丸の内高校 図書部 & 図書委員会のオススメ！」高知丸の内高校の生徒が作成したPOPと本を展示する。
- ・11・12月展示「国際高校図書部の本棚」高知国際高校の生徒が作成したPOPと本を展示する。
- ・全国高等学校ビブリオバトル2022高知県大会を開催予定。(11/27)
- ・職員によるブックトーク動画作成を検討。
- ②・機会を逃さず、折に触れ、図書館活用講座の提供が可能であることをPRする。
- ③・心の教育センターのブロック別研修に講師として参加予定。
- ・教育支援センターへ通う生徒を巻き込んだイベントを企画する(クリスマスPOPなど)。
- ・ヤングケアラーの支援につながるサービスの提供を検討する。
- ④・職場体験学習等で来館するティーンズにも寄稿を呼び掛けるなど方法を検討する。

主な連携先

高知県心の教育センター、県子ども家庭課

特記事項など

- ・支援協力担当、館長の高校訪問(8校)に同行し、サービス説明を行った。

3-【3】多文化サービス

概 要	○ 日本語を学習するための資料のほか、地域で生活するためのさまざまな情報や知識を、外国語やさしい日本語で提供します。 ○ 異文化を知るきっかけや、多様化する高知県在住外国人の生活に役立つ情報を提供します。	サービス指標 ブックリストやパスファインダーの提供数	R 4 年度（8/31現在）	R 8 年度目標
			18種	31種

主な取組（R4.4/1～8/31）

① 資料の収集・提供

・関係機関を通して、日本語習得のための資料の活用方法についてのチラシ配布、出前図書館(7/23県文化国際課主催の講座「多民族国家シンガポールの文化と見所」)を行うなどして、資料のPRをした。
・5/1～5/19「ことばで旅する世界の国々」、8/13～8/31「一度は読んでほしいオーテピア高知図書館3階雑誌展」を実施。

② 情報活用のサポート

・新たなブックリストを作成・提供した。
・在留外国人に向けた図書館活用講座、館内ツアーを実施。(7/21,7/27国際交流協会(KIA)、7/21龍馬デザインビューティー専門学校、8/19明德義塾高等学校)

③ 他機関等との連携

・「高知県外国人材確保・活躍戦略」(以降、「戦略」とする)に基づきサービスを提供。
・高知市総務課国際平和担当とスラバヤ市姉妹都市に関する連携図書展示を実施。
・国際交流員のおすすめ本を継続して展示。

④ 各種催しなどの実施

・新規に多文化理解講座「英語の音読教室」「世界の本の読書会」「トランプで楽しく異文化シュミレーション」を企画した。
うち「英語の音読教室」は7/17に実施。また、次回以降の新規講座の内容を検討中。
・こどもを対象としてHELLO WORLD外国語のおはなし会、English Nookを継続して実施。

成果と課題（○：成果 ■：課題）

①資料の収集・提供

○ 関係機関からレファレンスを受けるなど、PRの効果が少しずつ出はじめている。
■ 外国語資料や日本語学習資料があることの認知度が低い。在留外国人の日本語学習を支援する機関へ、多様な資料があることをさらに周知していく必要がある。

②情報活用のサポート

○ 延べ85名の日本語学習中の在留外国人に向けて、資料のPRや活用講座をしたことで、利用登録や貸出しなど図書館利用につながった。
■ ウェブ・サイトやブックリスト、パスファインダーなどで所蔵資料や活用方法をPRしているが、実際の配架が利用者にとって分かりづらいものになっている(日本語学習者向け資料と指導者向け資料が混在している、子ども向けの外国語資料が、子どもの利用が少ない3階にあるなど)。

③他機関等との連携

○ 「戦略」への参画により図書館サービスの周知を図るとともに、関係機関と今後に向けた協力体制が構築できた。
■ 在留外国人向け図書館サービスの認知度が低くPRが必要。
■ 市町村立図書館など地域における多文化サービスの提供が十分でない。また、コミュニティ単位の個別のニーズの把握方法について検討する必要がある。

④各種催しなどの実施

○ 7/17「英語の音読教室」では7名が参加。ネイティブスピーカーから直接、発音や作品ができた文化的背景を学ぶ内容で、多文化の理解増進につながった。今回、従来の当館の多文化サービスの主な対象者(在留外国人や子ども)とは違う利用者層へのアプローチを行い、サービス対象を拡大できた。
■ 情報資源を提供する場であることはもちろん、多文化交流ができる場としても図書館が有効である点について、効果的なPRが求められる。今後、在留外国人と地域住民の双方がお互いを理解できるような講座やイベント等に対するニーズを知る必要がある。



在留外国人向け
図書館ツアー・活用講座



マザーグースとアメリカの唄
～英語の音読教室～

今後の取組

①・資料の収集、展示を継続。
・引き続き図書館の多文化サービスを必要としている団体(学校/KIA/中小企業団体中央会)に対し広報を続ける。

②・ことばと国際交流コーナー内の配架の見直しなど長期的な計画を検討する。
・9月に県立大学の留学生に向けた館内ツアーを実施予定。

③・市町村立図書館等で在留外国人向けのサービスに取り組めるよう、多文化サービスをテーマに県内図書館職員向けに研修を実施予定(令和4年度ブロック別研修会後期)。
・10/16「国際ふれあい広場2022」に参加予定。
・コミュニティ単位のニーズ把握についてKIAなどに相談する。

④・9月に韓国文学の読書会、11月に多文化コミュニケーション体験講座を実施し、講座内でアンケートを行う予定。

主な連携先

国際交流協会(KIA)、高知市総務課

特記事項など

3-【4】図書館利用に障害のある人へのサービス

概要	○ 高知声と点字の図書館と連携し、図書館利用に障害のある人に配慮したサービスを提供するとともに、サービスの積極的なPRを行います。 ○ 多様な資料やサービス手段、コミュニケーション手段、ユニバーサル・デザインの考えに沿った利用しやすい環境を整える。	サービス指標 宅配貸出サービスの利用件数 対面音訳サービスの利用件数	R4年度（8/31現在）	R8年度目標（変更前）
			25件	60件
			438件	1,200件(780件)

- 主な取組（R4.4/1～8/31）
- ①バリアフリー資料の収集・提供

・7/1～8/7ディスレクシアに関する図書展示を実施。
・布絵本作製について春野高校と協議。
・バリアフリー対応のDVDリストを追加し、ウェブ・サイトへ掲載。
- ②やさしい読み上げサービス 新規

・知的障害者等を対象に、資料をわかりやすく読み伝えるサービスについて、オーテピア高知声と点字の図書館（以下声と点字の図書館）と協議。
- ③手話によるおはなし会

・聴覚障害者協会と協力して7/31に手話で楽しむおはなし会を開催。また、手話付き紙芝居動画の作成について協議。
- ④対面音訳ボランティア研修

・声と点字の図書館と連携して、6/18からボランティア養成講座を実施。7/10に読みの調べ方研修、8/28にスキルアップ研修を実施。
- ⑤サービス対象者への広報

・一部音声読み上げ機能も可能な電子雑誌閲覧サービス「Kono Libraries」を声と点字の図書館と共同で日本で初めて正式提供開始。新規
・支援協力担当とともに市町村図書館を訪問し、さくらバリアフリー文庫について紹介。
・声と点字の図書館、ルミエールサロン、障害福祉課等と連携したセミナーの準備中。
・当館SNSや店内電子掲示板でサービスを紹介。
・手話による利用案内動画の撮影準備中。

- 成果と課題（○：成果 ■：課題）
- ①バリアフリー資料の収集・提供

○ 図書展示は貸出が多く、途中で本を追加しながら計89冊を展示。ディスレクシアについての理解促進、サービス対象者や支援者の情報獲得に寄与できた。
- ②やさしい読み上げサービス

■ 実施事例の情報が少ないため、具体的な検討が進んでいない。
- ③手話によるおはなし会

○ 22名参加。手話という言葉の体験を通して、聴覚障害についての理解促進に寄与できた。
■ コロナ禍での実施においては、人数などの制限と広報とのバランス調整が必要。
- ④対面音訳ボランティア研修

○ のべ29名参加。毎年実施することにより、ボランティア活動に必要な知識や技術向上の機会を提供。
■ サービス利用者のニーズに対応できるよう、ボランティアの技術レベルの確保及び維持が必要。
- ⑤サービス対象者への広報

○ 多様な媒体で定期的に広報を実施をすることで、サービス対象者や支援者の情報獲得に寄与できた。
■ ・自館作成、編集の動画は字幕をつけていないものが大半であり、バリアフリー対応が十分でない。（利用しているYouTube自体の自動字幕機能は使用可能）
・コロナ禍によりサービス対象者や支援者等への対面での広報が不十分なためサービス対象者や支援者と直接つながる団体等への訪問やPRが必要。
-
- 7/31 手話で楽しむおはなし会
-
- 8/28 対面音訳ボランティアスキルアップ研修
-
- 電子雑誌閲覧サービスKono Librariesを4月に正式導入

- 今後の取組
- ①・バリアフリー資料の収集、展示を継続。
・11/27バリアフリー映画会でバリアフリーDVDリスト配布、関連資料を展示。
- ②・実施事例の情報収集を継続。
- ③・1/29手話で楽しむおはなし会。
・手話付き紙芝居動画の作成。
- ④・ボランティア研修を継続。
- ⑤・手話の利用案内動画作成。
・10/27、12/9にルミエールサロン主催「オンライン視覚障害基礎講座」にてサービス紹介。
・9/25「SDGs WEEK @イオン」、11/18-19「ふくし総合フェア」1/19「発達障害者就労支援セミナー」、「発達障害を知る・理解する-とーくImpression'」(1～3月)で出前図書館。
・特別支援学校への訪問。
- 主な連携先

県障害福祉課、ルミエールサロン 他

特記事項など

・リーディングルーペ等の読書補助ツールを導入。
・高知県読書バリアフリー計画策定予定のため、状況に留意する。
・令和5年度に読書バリアフリー研究会(主催：伊藤忠記念財団)実施予定。※声と点字の図書館と共同
- 10

4-【1】市町村立図書館等への支援（県立図書館機能）

概 要	○ 協力貸出等の物的支援や市町村職員を対象とした研修事業等の人的支援により、県全体の図書館サービスの充実と職員のスキル向上に努めます。 ○ 東部・中部・西部の各ブロックの担当職員を置き、課題解決支援サービスのノウハウ等の共有など、各市町村の状況等に応じた支援を行います。	サービス指標 協力貸出点数	R 4 年度（8/31現在）	R 8 年度目標
			15,557点	40,000点

主な取組（R4.4/1～8/31）

①巡回訪問や依頼訪問等による支援

・課題解決サービスに進展が見られる図書館や相談が寄せられている図書館を中心に訪問を行った。

②情報提供

・ブログやメールによる情報提供を行った。

・どのような手段での情報提供が望ましいか巡回訪問に合わせて聞きとりを行い、担当間で情報共有できるよう一覧表を作成した。

③研修の実施

・初任の市町村図書館等職員向けに図書館サービス研修を実施した（総合・児童サービス・レファレンス）。

・研修動画を追加作成した。訪問時等に紹介するなど、遠隔地等の職員の自学自習を促した。

④課題解決支援サービス実施への協力

・各自治体の課題に応じ情報提供や資料提供を行った。

宿毛市 行政支援サービス実施にあたり関連資料を協力貸出

香南市 多文化サービスについて説明

土佐市 多文化サービスについて情報提供

越知町・四万十市 行政支援サービス実施について情報提供、出前図書館実施に向けサポート

大月町 セット資料の活用について提案
バリアフリーサービスについて説明

・がんの啓発に関して巡回展示を企画した。

⑤移動図書館による支援

・利用が見込まれる資料を購入し運行した。

成果と課題（○：成果 ■：課題）

①巡回訪問や依頼訪問等による支援

○ 課題への対策案やサービスに関連する情報を提示することで、市町村の業務をサポートすることができた。

■ 図書館によってはより丁寧なフォローが必要とされる館がある。効果的、効率的な訪問が行えるよう、計画を立てる必要がある。

②情報提供

○ 情報提供の仕方について見直しを行ったことで、各館の利便性が向上した。

■ セット資料の貸出し等基本的なサービスについて、利用方法が分からない図書館があり、十分にフォローできていなかった。基本的なサービスについてもブログやメール等での広報が必要。

③研修の実施

○ 各研修とも多くの参加者があり、満足度も高かった。また、欠席する場合でも配布資料の送付を申込時から受け付けるようにしたことで、当日参加できない市町村職員に対し自己研鑽の機会を提供できた。

■ 参加者からはグループワークなど他館の職員との交流を希望する声が多いが、新型コロナウイルスのことを考慮すると実施が難しい。また、市町村職員間のレベルの差もあるため、各研修におけるレベルの設定を見直す必要がある。

④課題解決支援サービス実施への協力

○ 情報提供を行ったことにより当該図書館における新たなサービスの開始や、啓発展示の実施など、実施館の取組強化につながった。

■ 特に重点的な支援を要する新館準備中の図書館については、各館の状況や所在する地域の課題について、より丁寧な調査と情報共有が必要である。また、持続的なサービスを実現するため、図書館を所管する部署との連携も視野に入れた働きかけが求められる。

⑤移動図書館による支援

○ 図書館未設置地域を中心に資料提供を行えた。

■ 移動図書館について、図書館未設置市町村への重点化に向けた方向性を検討する必要がある。

今後の取組

①・より効果的、効率的な訪問とするため、時期や各館の課題を踏まえた訪問計画を立て、各館の課題や改善点について検討する。

②・基本的なサービスについても十分に広報できるよう、年度内に、「高知県内図書館協力マニュアル」を刷新する。

③・市町村職員の状況、オーテピア高知図書館内の研修計画を考慮しながら短期的・中期的な研修計画を作成する。
・参加者が情報交換の機会を得られるようリモート研修も視野に入れて計画する。
・9/22、12/15図書館サービス研修実施予定

④・新館準備中の館について、県・生涯学習課と連携しながらサービス創出の働きかけを強化する。
・課題に合わせた情報提供、資料提供を行う。特に外国人材確保・活躍に関する分野について資料の充実を図る。

⑤・移動図書館運行については、各自治体の予算の動向、資料提供体制等を考慮しながら、図書館未設置市町村への重点化に向けたロードマップを年度内に作成する。

特記事項など

4-【2】高知市全域サービスの拠点（市民図書館機能）

概要

- オーテピア高知図書館（本館機能）と6つの分館、15の分室、2台の移動図書館が一体となり、高知市内全域で図書館サービスを展開します。
- 児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を支えられるように、高知市内の小・中学校、義務教育学校、特別支援学校との連携・協力を強化します。

サービス指標

分館・分室・移動図書館利用者数
分館・分室・移動図書館貸出点数
市内小中学校等への団体貸出点数

	R4年度（8/31現在）	R8年度目標
分館・分室・移動図書館利用者数	125,261人	31万人
分館・分室・移動図書館貸出点数	511,326点	1,363,000点
市内小中学校等への団体貸出点数	2,615点	11,200点

主な取組（R4.4/1～8/31）

① 学校図書館との連携

- ・学校図書館支援員研修（令和4年5月12日開催、市学校教育課主催）にて講義を実施（小学校の部・中学校の部各1名ずつ計2名派遣）。
- ・学校図書館・各学級に対するセット貸出などの団体貸出の実施。

② 分館・分室、移動図書館の活性化

- 新規** 市民図書館職員3名を中心に、本館と分館・分室・移動図書館がより一体となって運営が行えるようにするための取組を実施。
- ・グループウェア内に自由にやり取りができる環境を構築。
 - ・本館職員が分館・分室を訪問し、現地での相談や質問を受け付けた。
 - ・7/15に分館・分室・移動図書館職員向けのオーテピア見学会を実施。

③ 接遇力や利用サービスの向上

- ・令和4年4月から、毎月の業務協議研修会にて基本業務研修を新たに実施。研修資料は共有し、レファレンスツールについても整理し、共有。**新規**
- ・実情を把握するため各館室でのレファレンス数の集計を開始。**新規**
- ・均一なサービスを目指すため、全体の業務マニュアルを改訂中。

成果と課題（○：成果 ■：課題）

① 学校図書館との連携

- 学校図書館の利用登録・選定支援コーナーの利用につなげている。
- 図書館支援員だけでなく、教職員に対しての利用促進を図る取組が必要。

② 分館・分室、移動図書館の活性化

- 各取り組みにより、細かなサポート体制を構築することができた。
- ・分館室訪問時に、現状を把握し、提案や助言を行うことで利用者が使いやすい環境を構築することができた。
- ・本館・分館・分室間の気軽な交流の機会が増え、繋がりを密にすることができた。
- ・図書館室を運営する上での細かな疑問についても気軽に確認できるようになり、館室全体の業務改善につながっている。
- ・分館・分室間においても、相互の交流により、それぞれの良い部分を自館室に取入れるなど意識の変化が生まれている。業務改善や他館室の良い部分を取り入れることで市民への図書館サービス向上にもつながっている。
- 来館者が減少している分館・分室については、原因を分析する必要がある。

③ 接遇力や利用サービスの向上

- 分館・分室職員の基本業務の習得につながった。また、分館・分室の調査能力の向上にむけた環境を構築することができた。
- ・集計しているレファレンス数は着実に増えている。
- 分館・分室の職員が使いやすいようマニュアルの改訂を進め、周知する必要がある。



本館職員による分館・分室訪問



返却された本を回送前に限定展示“コテピア”（潮江分館）



潮江分館の取組を参考に設置“コテピア”（秦分室）

今後の取組

- ① 10月の学校図書館支援員研修（市学校教育課主催）に、講師として職員2名を派遣予定。
- ② 訪問計画に沿って、残りの分館・分室への訪問を実施予定。
 - ・館内整理日の「オーテピア見学会」を継続して実施予定。
- ③ 基本業務研修の年間計画を策定し、引き続き、毎月研修を実施する。

特記事項など

4-【3】県立学校図書館等との連携・協力（県立図書館機能）

概 要	○ 生徒たちが読書を楽しみ、自ら必要な資料・情報を探し活用して学ぶ力を身につけるよう、生徒たちにとって身近な学校図書館と連携・協力して支援を行います。 ○ カリキュラムや生徒のニーズに対応する資料の収集・提供等により生徒の学びを支えるとともに、教職員等に対する研修や講座等を実施します。	サービス指標 団体貸出点数	R 4 年度（8/31現在）	R 8 年度目標
			1,838点	10,000点

主な取組（R4. 4/1～8/31）

①学校への資料の貸出しやレファレンスへの協力

- ・高知県教育振興基本計画を踏まえてグローバル教育等の図書セットを新たに作成し提供。
- ・高知東工業高等学校からの依頼を受け、教職員の校内研修用に不登校支援に関するブックリストを作成・提供。併せて団体貸出を実施。また各学校へメール等で情報共有し、教職員研修への協力をPR。
- ・昨年度までに訪問ができていなかった学校や利用実績のない学校を中心に訪問を行い、物流サービス等の説明を実施。
- ・県立夜間中学校、高等技術学校等、高校以外の学校にサービス説明を行い、利用カードを発行。

②学校や関係機関との連携の実施

- ・高等学校振興課と連携しパネル展を実施するとともに、丸の内高等学校外4校と展示について協議。
- ・7/29-31高知警察署と共催で就職相談会を実施。

③図書館活用講座等の開催

- ・8/3山田高等学校探究科の生徒へ図書館活用講座を実施。

④学校司書等の研修への協力

- ・学校図書館の役に立つ研修動画（公共図書館向け）を学校訪問時に周知した。

成果と課題（○：成果 ■：課題）

①学校への資料の貸出しやレファレンスへの協力

- 高等学校等への貸出点数が昨年度の同時期と比較し、約2.9倍に増加した。
- 教職員研修に協力することによって、教職員の資質向上に寄与することができた。また9月以降の研修についても引き続きブックリスト等を作成・提供予定。
- 学校司書等へのサービス説明では反応が薄く利用実績につながらない学校がある。
- さらなる利用促進のために学校の利用状況や課題を調査する必要がある。

②学校や関係機関との連携の実施

- 各高校の特色ある取組を来館者に提供することができ学校のPRにつながった。
- オーテピアの集客力を生かして高知県警の人材確保の取組に協力できた。複数のマスコミにも取り上げられ、高校生の進路選択を考える際に活用する場としてオーテピア高知図書館をPRすることもできた。
- 今年度の連携図書展示について2校の連携展示と1校のパネル展実施が決定。
- 各校の教育課程や地域性等を熟知したうえで働きかけないとティーンズ世代の貸出点数が伸びない。

③図書館活用講座等の開催

- 図書館での情報の探し方や情報リテラシーに関する理解を広めることができた。また、探究テーマに関連する資料を講座で紹介することによって学校への貸出しにつながった。
- 山田高等学校の実践事例に基づき、学校向けの図書館活用講座を他校へ積極的にPRする必要がある。
- GIGAスクール構想の一環で配布された1人1台端末からの高知県電子図書館がうまく活用されていない現状がある。

④学校司書等の研修への協力

- 時間や所在地に影響を受けない、資質向上に向けた研修を提供できた。
- オンライン研修や動画への反応を調査する必要がある。

③ 8/3山田高校探究科の生徒へ図書館活用講座

今後の取組

①・利用実績のない学校や特別支援学校等へ2学期中に訪問を行い、管理職同席のもとサービス説明を行う。

- ・研究指定校を中心に訪問し、学校の課題や特色に応じたブックリストの提供や貸出しの提案を行い活用を促していく。

②・今年度の訪問の機会を生かして、特色ある学科や学校の取組に沿う連携企画の提案を行い、来年度実施を目指す。

③・ブログや県広報紙等を活用し図書館活用講座をPRしていく。

- ・探究学習に役立つ紙資料と電子資料のハイブリッド型の図書館活用講座のプログラムを学校と連携し作成する。そのために3学期に訪問調査を行う。

④・ニーズに沿う研修動画を作成する。併せて、公開した研修動画のうち学校図書館に有用な点を学校訪問の機会やブログ等を活用し広報を行う。

- ・県内学校司書等に対してオンラインで研修を実施する。10/25 R4年度司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会（連携：高等学校課）

特記事項など

- ・ものづくり総合技術展に参加し、見学に来た学校へ図書館の活用方法を周知する予定。

13

4-【4】大学等の教育・研究機関等との連携・協力

概要

- 教育・研究機関に対して、当館の有する資料・情報を活かし、ニーズや必要性に応じて活動をサポートします。
- 多くの人に利用されている当館の強みを生かし、イベント等を共催したり、広報活動を支援したりすることで、相乗的な効果が発揮できるように積極的に連携を進めます。

主な取組 (R4.4/1~8/31)

※個別サービスでの取組は各サービスのシート内に記載

① 大学等の教育研究機関への貸出し

・ 9月の「がん征圧月間」に合わせた巡回展示を企画し、県内の大学・公共図書館等に対して参加の呼びかけを行い、展示に使用する図書、パンフレット類を収集した。

② 大学等と連携した共催事業の実施

・ 土佐リハビリテーションカレッジとの連携講座を準備。また学生対象の図書館活用講座や館内での連携展示を実施した。

③ 出前図書館等での資料の紹介・提供

・ 連携講座の会場で図書館のサービス説明や資料の貸出を実施した。

④ アウトリーチ・サービスの実施

・ 高知工業高等専門学校を訪問し、相互協力協定の締結について協議を行った。高知工科大学を訪問し、相互協力協定の改定や今後の連携について意見交換を行った。

⑤ 学生ボランティア等との協働

・ 高知県立大学のボランティアサークル団体オーテピアンズが「大人の方へ贈る読み聞かせ」のYouTube配信を開始。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

① 大学等の教育研究機関への貸出し

○ 6つの大学・病院図書館から参加申込みがあり、協力関係を広げることができた。

② 大学等と連携した共催事業の実施

○ 継続的に連携事業を行うことで、利用者への医療健康情報の提供に貢献できている。

○ 図書館活用講座の参加者が、講座受講後に利用カードの登録や電子図書館の利用申請をするなど、その後の利用拡大につなげることができた。

■ 医療系以外の大学等との共催事業が少ない。

③ 出前図書館等での資料の紹介・提供

○ 継続的に学生を対象とした図書館活用講座を実施することになり、取組が定着しつつある。

■ 講座会場での出前図書館の貸出しが多くない。

④ アウトリーチ・サービスの実施

○ 訪問によって職員との関係づくりや当館のサービスの紹介が進んだ。

⑤ 学生ボランティア等との協働

○ コロナ禍で活動が制限される中で、図書館に来館しなくても利用できるサービスの充実について、学生が自ら考え、形にすることができた。

○ 朗読動画は音声のみのため、仕事や家事などで忙しく読書の時間が取れない方や、目の見えにくい方に、聞いて楽しむ読書の方法を提案することができた。

■ SNSや館内でのチラシ配布など行ったが認知度が低く、更なる周知が必要。

Instagramでオーテピアンズ朗読動画公開を紹介

オーテピアンズへのボランティア研修

今後の取組

① 9/1~がん啓発に関する巡回展示を実施。

・ 大学等の図書館に、学生へ当館のサービスを周知する機会がないか打診する。

② 連携実績がない大学等との連携・協力の方向性等を検討し、アウトリーチの働きかけを行う。

③ 連携の効果等を分析し、次年度事業及び他大学へのアプローチに生かす。

④ 年度内に協定の締結・改正手続を進める。

・ 各大学図書館を訪問し、各館の取組状況や意向等について情報収集・意見交換を行う。

・ 特に大学の専門性を生かした新規サービスの創出について、連携の可能性を探る。

⑤ 9/20~展示「オノマトペで選ぶ絵本~音から楽しく絵本を選んでみよう~」

・ 11/27「全国高等学校ビブリオバトル2022高知県大会」において大会ルール説明役を担当

・ 高知学園短期大学については活動内容について学生から企画提示してもらい、今年度中に活動開始する。

主な連携先

高知工科大学、高知リハビリテーション専門職大学、土佐リハビリテーションカレッジ、高知大学医学部、高知工業高等専門学校 他

特記事項など

4-【5】 中心市街地活性化への寄与・周辺施設との連携

- 概要
- オーテピア高知図書館の資料・情報、司書の専門性、利便性の高い立地といった資源を活用し、中心市街地の活性化に寄与します。
 - 文化施設等の周辺施設と連携・協力し、各施設の強みや機能を充実・強化させ、互いの施設の利用促進や情報発信等につなげます。

- 主な取組 (R4. 4/1~8/31)
- ①個々の商店や商店街全般に役立つ図書等の収集・提供
 - ・商店経営の仕方、商品ディスプレイのノウハウなど、個々の商店や商店街の振興全般に役立つ図書や雑誌等を収集・提供。
 - ②観光情報の収集・発信
 - ・3階高知資料コーナー及び1階にて、よさこい祭りの開催に合わせた展示を実施。(連携：市文化振興課、観光企画課、地域活性推進課) SNSで発信した。
 - ③商店街や日曜市等の情報発信
 - ・日曜市のポスターを図書館内で掲示することを協議、決定。
 - ④商店街との協働
 - ・土曜夜市(7/23)へ出店。
 - ⑤図書館サービスのPR
 - ・市民図書館長・副館長・担当職員が帯屋町商店街関係者を訪問し、関係の強化を図った。
 - ⑥文化施設との連携
 - ・図書館2Fのこどもコーナーに「高知まんがBASE」・「高知こどもの図書館」・「県立文学館」の宣伝用ボックスの設置。
 - ・県内文化施設と協力して11月に開催される全国博物館大会の委員会に出席。

- 成果と課題 (○：成果 ■：課題)
- ①個々の商店や商店街全般に役立つ図書等の収集・提供
 - 商店街振興に役立つ選書を継続して行ったことで、経営や販売に関する資料にアクセスしやすい書架になっている。
 - 継続的にニーズを把握していくため、イベント等の機会に商店街の方との交流を継続していく必要がある。
 - ②観光情報の収集・発信
 - 連携して展示を行うことで、「ならでは」として収集しているよさこい祭りの写真データやよさこい鳴子踊りの作詞・作曲者である武政英策氏に関する資料の情報などを入手できた。SNSで発信した展示情報はリツイートやシェアなどもされ、好評を博した。
 - ③商店街や日曜市等の情報発信
 - 引き続き、商店街や関係各課との連携強化の必要性がある。商店街や日曜市等の情報についても、効果的な発信方法の検討が必要。
 - ④商店街との協働
 - 土曜夜市に出店することで、商店街の賑わい創出に寄与するとともに、オーテピアのPRをすることができた。
 - ⑤図書館サービスのPR
 - 帯屋町商店街の関係者と定期的なつながりを持つことで、図書館の存在をPRできた。
 - 引き続き商店街関係者との関係強化をはかるとともに、今後についても図書館サービスPRの実施方法や実施時期について更なる検討が必要。
 - ⑥文化施設との連携
 - 宣伝用ボックスの設置により、施設間の回遊に寄与できた。
 - 全国博物館大会の分科会運営に向けた人員の確保等、具体策についての詳細な検討が必要。また、企業ブースの設置もオーテピアで行うため、管理運営の事前確認が必要。
- 

土曜夜市の様子



「まんがBASE」・「高知こどもの図書館」・「県立文学館」の宣伝用ボックス

- 今後の取組
- ①・商店街振興を意識した資料の収集・提供を継続。商店街の方と交流を深め、資料のニーズを把握。
 - ・アフターコロナに向けた情報提供
 - ②・引き続き、よさこいに関する資料等の収集をはじめ、様々な観光情報の収集を行う。
 - ③・高知県にゆかりのある漫画家が描いた日曜市のポスター6枚と、日曜市のパンフレットをオーテピア1階南入り口付近に展示し、日曜市のPRや高知市産業政策課との連携促進に繋げる。
 - ④・11月開催の「まちゼミ」への参加を検討。
 - ⑤・商店街の方に向けた図書館サービスPRの実施方法や実施時期について検討。
 - ⑥・博物館大会の委員会は今後も実施予定。継続して参加し、スケジュール管理を徹底する。
 - ・11/20 お城下文化の日イベント
- 主な連携先
- 市文化振興課、観光企画課、地域活性推進課他
- 特記事項など
- ・商店街や宿泊施設等への団体貸出については進展なし。新型コロナウイルスの終息を待つて協議を進める。